

Q、木を使うことが、どうして森林を守ることにつながるのかな？

○ライオン丸さんの話（エキスパート資料 A）

森林には、天然林と人工林があったよね。

天然林は、人の手がほとんど入っていない自然のままの森林で、いろいろな種類の木がはえていたよね。

人工林は、木材をつくるために、人がすぎやひのきなどを植えてできた森林だったね。

さて、その人工林のことで、思い出してほしい。右の写真①と②は、同じ人工林なんだけれど、様子がちがうね。この違いには、人が関係していたね。①は、人が下草がりや間ばつ、枝打ちなどの手入れをおこなってきた人工林で、②は人が手入れを行ってこなかった人工林なんだ。

これは、森林体験の時に、森林組合の久保さんが少しお話をしてくれたことだよ。

このように、人工林というのは、きちんと人が手入れをしてあげないと、すぐにあれてしまい、良い木材をつくる出すことができないんだ。

人工林の手入れというのは大変な仕事ですが、どんな人達がしてくれていたのかな？

ライオン丸さんの
イラスト

①よく手入れされた人工林
の写真

②あまり手入れされていない人工林
の写真

MEMO

◎わたしのストーリー

Q、木を使うことが、どうして森林を守ることにつながるのかな？

林業で働く人のイラスト

○林業で働く人の話（エキスパート資料 B）

みんなは、木をつくり、育てて、守っている人達のこと、もう勉強したよね。

森林組合さんで働かされている人を初め、林業にかかわる人のおかげで、たくさんの木が育ち、それが木材になるわけです。

しかし、今働き手が問題となっています。それは高齢化です。

私たちのように林業の仕事についている者の年齢は、年々高くなってきています。高齢になるにつれ、なえ植え・下草がり・間ばつ・枝うち・ばっさいといった林業の仕事が今まで通りにできなくなり、仕事がかぎられてきてしまっています。

そこで、どうにかして高齢化の問題を解決したいと思い、あとをついでくれる若い人を探しているのですが、林業をしたいという若い人の数が少ないのです。若い人達はみな、林業をつぐことなく、町に出て別の仕事についてしまっています。

わたし達のあとをついでくれる若い人が多くなってきてくれれば、また昔のように林業がさかんにおこなわれる時がくるはずですよ。

あとをついでくれる人を増やすためにはどうすればいいのかな？

MEMO

◎わたしのストーリー

Q、木を使うことが、どうして森林を守ることにつながるのかな？

○モンチチさんの話（エキスパート資料 C）

モンチチさんの
イラスト

みんながお勉強している鳥屋城小学校は、木材が使われているところが多いね。ゆかやかべ、机やいすが木材だし、体育館にも木材は使われているね。

身のまわりで木材が使われているのを多く見かけることがあるんじゃないかな。お家は、ほとんどが木材でできているという人もいると思う。

でも、家の建築数で見ると、実は木で作られた家というのは、年々減少してきているんだよ。

また、木材の国産材と輸入材の消費量を右グラフで見よう。1960年には、国産材が輸入材を大きく上回っていたのに、

2009年には、輸入材が国産材を大きく

上回っていることがわかるね。つまり、みんなの生活の中にある木材の多くは、外国産の可能性が高いということだ。

この消費量の差は、国産材と輸入材の金額の違いによって生まれたものなんだよ。国産材に比べて、輸入材は値段が安いんだ。

このままだと、輸入材におされて、国産材の使用がどんどん減ってしまいます。そうすると、木材のお世話をする人達の仕事は、どうなっていくてしまうんだろう。

国産材と輸入材の消費量

農林水産省調べの棒グラフ

MEMO

◎わたしのストーリー
